



**総選挙 10月19日公示、31日投開票へ**

## 自民党一強体制を終わらせて、 正直で公正な政治を取り戻す!

菅総理大臣の退陣を受けて、10月4日に岸田内閣が発足しました。岸田総理は、衆議院を14日に解散し、総選挙は19日公示・31日投開票の日程で行われることになりました。新型コロナウイルスの感染が拡大し、医療現場が逼迫する中で、私たち野党は、7月からコロナ対策を議論するための臨時国会召集を憲法に基づいて要求してきましたが、菅政権はこれを拒否し続けました。

コロナとの闘いは、国難ともいえる事態であり、本来であれば、通常国会（6月16日閉会）の会期を大幅に延長して、国会は休むことなくコロナに対応すべきでした。デルタ株の流行や東京五輪の開催などにより、夏に感染が爆発的に拡大することは、早くから複数の専門家が指摘していました。しかしながら、菅政権は、根拠なき楽観論に立ち、こうした事態に備えた医療体制の整備を怠り、医療現場が逼迫し、入院することが出来ずに自宅療養中に亡くなる事例も多数に上りました。救える命を救うことができなかった責任は極めて重いと思います。

安倍・菅政権が9年近くにも及び、総理官邸と幹事長など一部に権力が集中する体制が続く中で、国会が軽視され、国会に提出される資料の改ざん、情報の隠ぺい、官邸に対する一部官僚の忖度など、議会制民主主義の根幹が揺らぎかねない事態を招いています。自民党一強体制の下で、政治とカネを巡る問題で、自民党の国会議員が逮捕や起訴される不祥事も相次ぎました。

権力は必ず腐敗します。だからこそ、時に政権が交代することが必要です。自民党の表紙を代えたとしても、自民党の一強体制を変えなければ政治を変えることはできません。来るべき総選挙は、今後も自民党一強体制を続けるのか、これを終わらせるのかという大事な選択の機会となります。

私は、昨年の通常国会から無所属の立場で、野党第一党の立憲民主党の会派で活動してきましたが、この度、立憲民主党に入党して総選挙に臨むことに致しました。もう一度政権交代を目指し、少なくとも与野党の勢力が伯仲、拮抗する状況をつくることで、政治の緊張感を取り戻し、国民に正直で公正な、開かれた政治を行うために全力で頑張つてまいります。



# 笠ひろふみ

りゅう 衆議院議員6期 元文部科学副大臣



# りゅう 笠ひろふみ、総選挙に向けての決意!

## 立憲民主党入りを決断!

総選挙に向けた野党の候補者擁立が進められる中、8月下旬より立憲民主党の幹部より「党の公認候補として一緒に戦って欲しい」という熱心な誘いをいただきました。昨年より、立憲民主党会派の一員として国会活動を行ってきましたが、次の総選挙に臨むにあたっては、与野党逆転が目標ですが、少なくとも野党が議席を伸ばし、与野党伯仲の状況をつくり出し、政治の緊張感を取り戻さなければならないという認識の下、小選挙区で勝利するために、野党系無所属で臨むべきか、立憲民主党の公認候補として臨むのかについて、非常に悩みました。

こうした中、菅総理が退陣することになり、今回の選挙は、9年近い安倍・菅体制の政治を総括した上で、今後も自民党一強体制を続けていくのか、これを終わらせるのかという選択をしていただく、「与党」対「野党連携」の大きな枠組みでの決戦となります。

当然ながら、野党第一党の立憲民主党の責任と役割は今まで以上に大きくなります。立憲民主党が中心となって、もう一度、自民党に対抗できる勢力をつくりあげていかなければなりません。立憲民主党の中には、政府与党の立場で仕事をした議員も多数います。私自身も党に所属して、これまでの経験を活かしながら、政権を担うべく期待と信頼を寄せただけの勢力となれるように頑張っていきたいという思いで、今回、入党を決断いたしました。

## 将来への明確なビジョンを示すことが必要!

民主党が政権から転落した2012年12月の総選挙以降、衆議院3回、参議院3回の国政選挙は、全て自民党の勝利でした。9年近くの安倍・菅政権の自民

党一強体制を続けさせた責任は私たち野党にあります。この間、政権への批判、不信が高まって、マスコミ各社の世論調査では、“他に期待できる政党がない”という理由で、自民党支持や支持政党なし層が多数に上り、野党に受け皿としての期待が高まらない状況が続いています。敢えて申し上げますが、立憲民主党も変わらなければならないと思います。野党の役割として政府の対応を厳しくチェックしていくことも重要ですが、追及や批判に終始するのではなく、今まで以上に建設的な提案を行い、政策を立案し、実現していく姿を示していかなければなりません。

新型コロナウイルスの感染拡大は、日本が抱える多くの構造的な課題を浮き彫りにしました。大地震や集中豪雨などの自然災害に備えた『防災』に加えて、ウイルスとの闘いに備えた『防疫』も重要な課題となります。医療体制の見直しや国産のワクチンや治療薬の開発促進に向けた体制づくりは急務です。国と地方の役割分担の明確化や東京一極集中の見直しの議論も必要です。経済格差の顕在化、デジタル化の遅れ、働き方改革、少子化の加速など、難しい問題に直面しています。コロナと共存する社会、そしてコロナ後の社会をどうしていくのかを構想する力こそが政治に求められています。私は、立憲民主党が、こうした課題についての明確なビジョンを示すことができる政党になるよう行動していきたいと思っております。

2003年11月9日に初当選して以来、皆さまのおかげで6期連続当選を果たし、国会議員として18年間活動させていただいております。

コロナ後の社会を築き、日本の将来を担うのは子どもたちです。今後とも、『人づくりなくして国づくりなし』の信念の下、誰もが意欲があれば生涯を通じて学ぶことができる社会をつくるため、教育政策と子育て世代への支援を充実させるように全力をあげてまいります。

### 笠ひろふみプロフィール

1965年 1月3日生まれ 56歳  
 1983年 福岡県立修猷館高校 卒業  
 1989年 慶應義塾大学文学部 卒業  
 同年 テレビ朝日入社  
 営業局・報道局政治部記者  
 2003年 11月 衆議院議員初当選  
 2005年 9月 衆議院議員(2期目)当選  
 2008年 4月 民主党神奈川県連代表(3期務める)  
 2009年 8月 衆議院議員(3期目)当選  
 2010年 9月 文部科学大臣政務官

衆議院神奈川県第9選挙区 川崎市多摩区・麻生区 宮前区神木本町1丁目～5丁目

2012年 10月 文部科学副大臣  
 2012年 12月 衆議院議員(4期目)当選  
 2013年 6月 党幹事長代理  
 2014年 9月 議院運営委員会筆頭理事  
 2014年 12月 衆議院議員(5期目)当選  
 2016年 9月 党国会対策委員長代理  
 2017年 10月 衆議院議員(6期目)当選  
 2017年 11月 衆議院・科学技術イノベーション推進特別委員長  
 文部科学委員、拉致問題特別委員

【所属する主な超党派議員連盟】  
 日本フィリピン議員連盟 幹事長  
 衆議院日本モンゴル友好議員連盟 幹事長  
 日本チベット国会議員連盟 副会長  
 日華議員懇談会 幹事長代理  
 ボーイスカウト振興国会議員連盟 事務局長  
 スポーツ議員連盟 幹事長代理  
 活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟 事務局長  
 夜間中学等義務教育拡充議員連盟 事務局長  
 拉致議連 事務局長代理  
 マンガ・アニメ・ゲームに関する議員連盟 事務局長